

「シーガー使って今日も快釣」

鈴木新太郎のワンポイントアドバイス

★当日の仕掛けは図にあるとおり。鈴木さんはハリス12メートルの1本バリ、ノットは強度のある南方延縄結びを採用。粕川さんは10メートルの2本バリ仕様で、枝スの部分を編み付けにして強度を保っている。いずれもスタート時のもので、釣りながらハリスの長さ、ハリのおきなどを替えていくパターンだ。使用するハリスはしなやかで強度のある「シーガーグランドマックスFX」、これ以外は考えられませんが2人は口をそろえる。



●シーガーグランドマックスFX

▲0.3~10号まで19アイテム、各60m巻き、メーカー希望本体価格3200~6000円

●シーガーPE X8

▲3号は150~400m巻きまで用意



▲鈴木さんは船上でサクッと仕掛けを作る

▲粕川さんはあらかじめ数組の仕掛けを持参

▼粕川さんは2本バリの枝ス部分とサルカン部分を編み付け

▼鈴木さんのハリスは南方延縄結び



▲剣崎~久里浜沖を幅広く探った



▲終盤に2枚目を釣って竿頭にフグの猛攻をかわし、ようやく竿を曲げた

Challenge #73 三浦半島剣崎松輪港出船

釣れる釣れる 釣れる釣れる 釣れる釣れる



●ナギの釣り日和だったが、潮具合が今一つで食いは渋かった

★鈴木さんが船中1枚目を釣り上げる



★この日は1キロ弱がメイン、型見ずの方もいた食い渋り日だった



鈴木新太郎、粕川晃

乗っ込み前の難敵マダイに挑戦 あの手この手の 食い渋り攻略

◎本誌発売ごろ、マダイは乗っ込みの最盛期に突入しているはず。とはいえこの時期は不安定な水温や天候で食い渋り状態に陥ることもしばしばある。今回は鈴木新太郎、粕川晃の両氏が乗っ込み前の微妙な時期に釣行し、食い渋りマダイを攻略した模様をお届けする。



★信頼のハリス、まさに余裕のやりトリだった

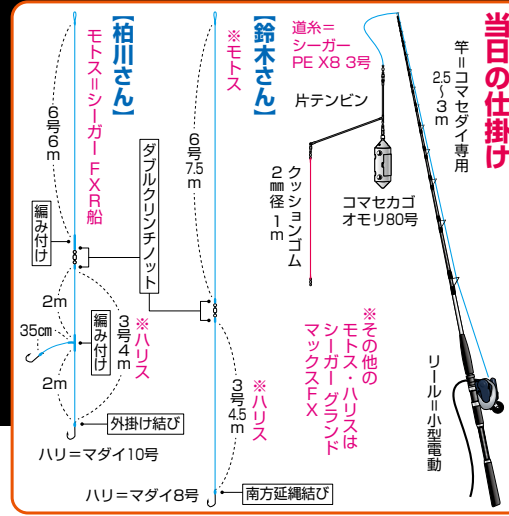
★マダイのカンヌキにガッチリ。シーガーグランドマックスFXならハリス切れの心配もない

▲この日の船中最大は1.5キロ級



「セオリーどおりの釣り方ですが、アタリも引きも弱かったですね」と活性の低さを語る。1時間後、ようやく粕川さんにもアタリがきて、同級を上げてホッとひと息。これを機に船中でもアタリが始めるものの、いずれも散発的で盛り上がり欠ける展開だ。潮止まりとなる12時ごろ、今度は剣崎沖水深45メートル前後へ移動。上げ潮が動き出したせいか、ポツポツとアタリが開始する。ここで鈴木さんに2度目のアタリ。

三浦半島剣崎沖へ釣行した3月上旬は乗っ込み前の不安定な時期。日によるムラが激しく、いわば「嵐の前の静けさ」的なところもある。鈴木新太郎さん、粕川晃さんもそんな状況を十分知っていたが、「乗っ込みシーズンの肩慣らし、とりあえず1枚を目標にがんばります」とやる気満々。乗船したのは剣崎松輪港の大松丸。右舷トモに並んで座り、さっそく準備に取りかかる。鈴木さんは例によって直前情報を仕入れてから船上で仕掛けを作るパターン。一方の粕川さんはこれまでの実績と経験を元に数組の仕掛けを持参するパターンだ。共通するのはいずれもハリスに「シーガーグランドマックスFX」を使用することだ。6時半に出船し、まず鈴木茂明船長が向かったのは昨日好調だったという剣崎沖水深50メートル前後。すぐに釣り開始となるが、この日は大潮だというのにあまり潮が流れておらず、潮もきれいに澄んでいて、条件としてはよくない。1時間ほど狙うものの船中アタリすらなく、久里浜沖水深60メートル前後



「落とし込んでから微速巻き上げをしている最中に食いました」と言いながら1キロ級をキャッチし、間もなく沖揚げりの13時半を迎えた。船中では0.8~1.6キロを0.5~2枚と今一つの釣果に終わったものの、2人とも型を見られて満足げな表情。乗っ込みを控えての情報収集もバッチリだったようだ。なお当日の仕掛けの作り方や釣りの模様などは近日動画が公開される予定。